

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図(目的)
大綱(取組)	V「暮らしやすいまちの未来」	11.b	○	公共施設の整備改善及び宅地の利用増進を図り、賑わいのあるまちなみにするため、土地区画整理事業を行う。事業用地の先行取得、建築物等調査算定業務、換地設計業務等を行い、同時に地区内権利者と協働でまちづくりを推進する。また、都市計画道路日の出通り線を含む未整備な公共施設の整備を推進する。	本地区を魅力ある「郡山市の顔」とし、中心市街地の空洞化を防止し活性化を図る。
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち				

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
郡山駅前に至近という好立地条件にもかかわらず、低層木造住宅や空き店舗が目立ってきており、土地区画整理事業の手法による面的な整備を行い、都市機能の更新が望まれている。	周辺の整備事業としては、複数の市街地再開発事業、駅前広場整備が実施され、立地適正化計画による都市機能誘導区域が策定されている。	郡山駅の西側に隣接した恵まれた立地条件を有していることから、日の出通り線等の公共施設を整備することで、宅地の有効利用を促進し、建築物の耐震・不燃化を誘導するとともに、郡山市の玄関口に相応しい良好な市街地が形成される。	都市機能が更新されることから、当事業が早期に完了することが望まれている。

2 事業進捗等(指標等推移)

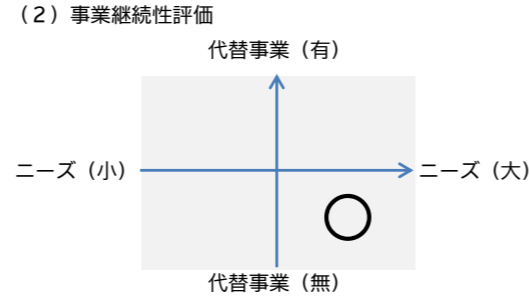
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		七次実施計画	八次実施計画	まちづくり基本指針	
			2019年度(令和元年度)	2020年度(令和2年度)	2021年度(令和3年度)	2022年度(令和4年度)	2023年度(令和5年度)	2024年度	2025年度	中間指標 2022年度	最終指標 2025年度					
対象指標	土地所有者(大町土地区画整理事業)	人		58	58	58	58	58	58	58	58	58				
活動指標①	建物移転戸数(単年度)	戸	1	8	8	8	8	8	3		2		0	0		
活動指標②	道路整備延長(単年度)	m			85	208	244	30		152		187	187			
活動指標③																
成果指標①	事業費ベースの進捗率	%	56.9	61.0	69.6	70.3	72.3	88.9	87.5	92.4		95.5	97.7	87.5	98	
成果指標②	仮換地指定率	%	28.4	24	31.5	48	66.7	55	82.5	93.9		100.0	100.0	82.5	100	
成果指標③	公共施設整備率	%	0.0	0	0.0	10	24.5	51	38.1	56.0		78.0	100.0	38.1	100	
単位コスト(総コストから算出)	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		58,724	62,053	59,729	42,203		71,284		76,124	79,308				
単位コスト(所要一般財源から算出)	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		34,946	40,440	32,143	1,985		6,159		9,735	13,717				
事業費		千円		1,272,765	546,915	1,083,345	611,300		319,114		205,806	144,300				
人件費		千円		25,040	30,178	27,623	30,178		30,178		30,178	30,178				
歳出計(総事業費)		千円		1,297,805	577,093	1,110,968	641,478		349,292		235,984	174,478				
国・県支出金		千円		525,500	201,000	513,100	369,500		0		0	0				
市債		千円					0		0		0	0				
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円					0		0		0	0				
その他		千円					241,800		319,114		205,806	144,300				
一般財源等		千円		772,305	376,093	597,868	30,178		30,178		30,178	30,178				
歳入計		千円		1,297,805	577,093	1,110,968	641,478		349,292		235,984	174,478				
	実計区分	評価結果	拡充	継続	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費(事業費・人件費)分析結果
地区内の建物移転戸数について、計画8戸に対して実績8戸と計画通りの実績となった。道路整備延長については、建物等移転補償の進捗が図られたことにより、目標値を上回った実績となった。	仮換地指定率については件数が少なかったため計画を下回ったが、規模の大きい建築物の補償を行ったことから、事業費ベースの進捗率が前年度から18.6ポイント上昇した。また、区画道路5路線の整備を実施したことにより、公共施設整備率が41ポイント上昇した。	【事業費】 令和3年度は大規模建物と数件の建物移転の実施により、前年度から事業費が約5億4千万円と増加した。 【人件費】 人件費については、事業費の増額が大規模建物による部分が大きく、補償件数が少なかったことから、人件費については減少した。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標(活動達成度)	4
5 成果指標(目的達成度)	3

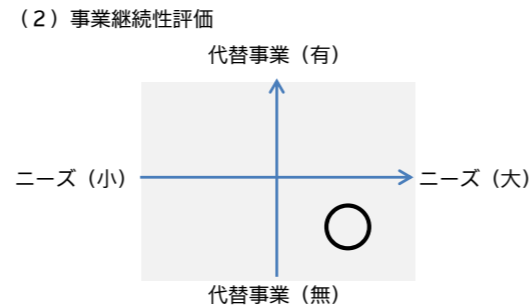


継続	一次評価コメント
継続	令和3年度は、大規模な建物移転補償の実施と公共施設整備の実施により事業費ベースの進捗率が大幅に上昇した。今後も、権利者の理解と協力を得ながら郡山市の玄関口に相応しい良好な市街地の形成が図られるよう都市計画道路日の出通り線の早期供用を目指し事業を進める。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標(活動達成度)	4
5 成果指標(目的達成度)	4



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、大町地区について土地区画整理事業により面的な整備を行い、市街地の活性化を図るものである。令和3年度は、建物等移転補償が進捗したことにより事業費ベースの進捗率が18.6ポイント、区画道路5路線の整備により公共施設整備率が41ポイント上昇し、計画を上回る進捗率となった。事業費は大規模建物の移転により増加したが、財源の一部をより補助金の配分の良い都市構造再編集中支援事業に振り替えるなど、更なる事業の進捗を図っている。令和7年度事業完了に向けて、都市計画道路日の出通り線の早期供用を目指し、今後も継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図（目的）
大綱（取組）	V「暮らしやすいまちの未来」	11.3 11.b	-	土地区画整理事業施行地区内の道路等の公共施設整備、建物移転、宅地整地及び保留地売却を行う。	都市計画道路等の整備による公共施設の適正な配置を行い、計画的な秩序ある市街地形成と快適で調和のとれた街づくりを図る
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち				

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
市街化区域でありながら、ほとんどが農地であり、民間開発による、住居が点在していた。	専用住宅、共同住宅、事務所、商業施設、病院等が建設されており健全な住環境が形成されている。	都市計画道路、区画道路、下水道の整備が完了し、今後においては公園等の整備により良好な市街地の形成が実現する。	土地区画整理事業により公共施設の整備、良好な住宅地が形成され地区住民への恩恵をもたらしていることから、満足度が高い。

2 事業進捗等（指標等推移）

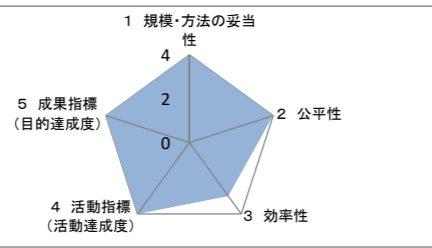
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		七次実施計画	八次実施計画	まちづくり基本指針		
			2019年度（令和元年度）	2020年度（令和2年度）	2021年度（令和3年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度	2025年度	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度						
対象指標	土地の権利者数	人		528		528		528									
活動指標①	道路整備延長（単年度）	m	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
活動指標②	建物移転戸数（単年度）	戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
活動指標③	保留地売却箇所数（単年度）	箇所	9	6	4	8	2	2	2	0	0	0	0	0			
成果指標①	事業費ベースの進捗率	%	100.0	97.5	99	98.3	99	98.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100	100
成果指標②	仮換地指定率	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
成果指標③	保留地売却箇所数（累計）	箇所	141	135	145	143	148	145	150	150	150	150	150	150	150	150	150
単位コスト（総コストから算出）	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		111,134		152,096		181,468	201,074	0	0	0	0	0			
単位コスト（所要一般財源から算出）	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		79,129		26,580		177,407	21,264	0	0	0	0	0			
事業費		千円		106,174		100,413		93,217	185,000	0	0	0	0	0			
人件費		千円		16,074		21,264		15,664	21,264	0	0	0	0	0			
歳出計（総事業費）		千円		122,248		121,677		108,881	206,264	0	0	0	0	0			
国・県支出金		千円		0		0		0	0	0	0	0	0	0			
市債		千円		0		0		0	0	0	0	0	0	0			
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		0		0		0	0	0	0	0	0	0			
その他		千円		35,206		100,413		2,437	185,000	0	0	0	0	0			
一般財源等		千円		87,042		21,264		106,444	21,264	0	0	0	0	0			
歳入計		千円		122,248		121,677		108,881	206,264	0	0	0	0	0			
	実計区分	評価結果		継続	継続	継続	継続	継続	完了	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
保留地について、web等により販売促進に向けた取り組みを行い、計画2箇所に対し実績2箇所と計画通りとなった。	保留地を2箇所売却したことにより、売却累計が145箇所となり事業進捗が図られた。	【事業費】 令和3年度は前年度に比べ減少したが、令和4年度の換地処分に向け、確実に進捗が図られている。 【人件費】 事業完了に向けた進捗が図られていることから、人件費については減少方向にある。

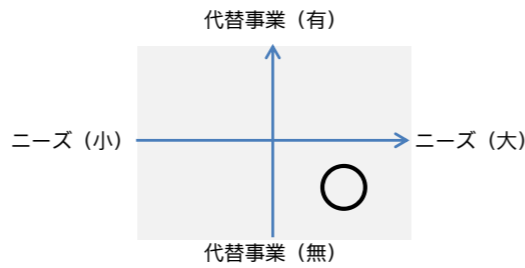
3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4



(2) 事業継続性評価

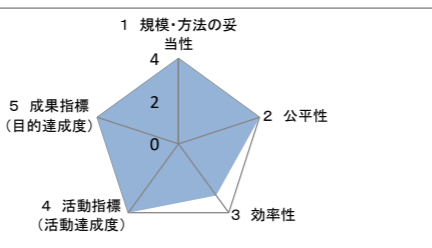


完了	一次評価コメント
完了	令和3年度は換地計画策定業務を実施し、令和4年度に換地処分を行い事業完了とする。

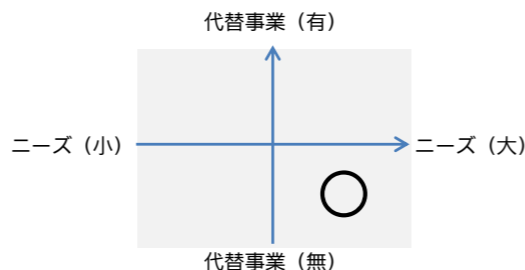
4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4



(2) 事業継続性評価



完了	二次評価コメント
完了	当該事業は、国道49号、郡山インター線及び調訪前西ノ山線を幹線道路として整備し、快適で調和のとれた街づくりを推進するものである。 都市計画道路、区画道路、下水道の整備は既に完了しており、令和3年度は保留地について計画どおり2か所売却した。また、換地処分に向けた換地計画の策定委託を行ったところである。 バスベイ等の整備をもって事業全体の施設整備が完了し、換地処分を行う予定となっている令和4年度をもって事業完了とする。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図（目的）
大綱（取組）	V「暮らしやすいまちの未来」	11.3 11.b	-	土地区画整理事業施行地区内の道路等の公共施設整備、建物移転、宅地整地及び保留地売却を行う。	中心市街地と周辺部を結ぶ交通体系の確立と計画的な都市基盤の整備により、水害等の災害の防止を図り、健全で新しい市街地の形成に努める
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち				

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
中心市街地から近郊に位置しており、中心市街地と周辺部を結ぶ幹線道路等の整備と計画的な市街地整備が必要な地域だった。	土地区画整理事業が進み道路、公園等の整備により健全な居住環境として形成してきている。 施工範囲の一部が地区内に含まれる県事業の逢瀬川河川改修事業が進んでいる。	更なる土地区画整理事業の推進により、周辺地区との道路網の確立に併せた一体的な都市基盤の整備の促進により安全・安心で快適な生活基盤が整備される。	土地区画整理事業の事業期間が長期にわたっているため、権利者から移転先の宅地整地、区画道路の整備の早期実現など、早期の事業完了が望まれている。 また都市計画道路東部幹線の早期開通が望まれている。

2 事業進捗等（指標等推移）

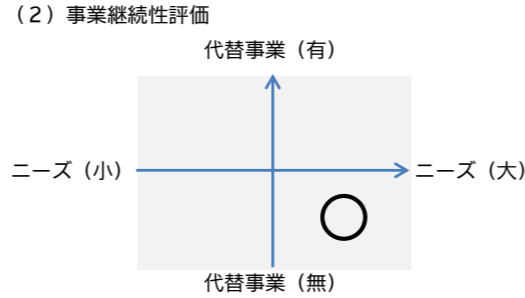
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		七次実施計画		八次実施計画		まちづくり基本指針		
			2019年度（令和元年度）	2020年度（令和2年度）	2021年度（令和3年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	2024年度	2025年度	中間指標	最終指標								
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	2022年度	2025年度	
対象指標	土地の権利者数	人		402		402		402											
活動指標①	道路整備延長（単年度）	m	150.0	294	0.0	341	110.0	212	355.0		720.0		920.0	300.0					
活動指標②	建物移転戸数（単年度）	戸	0	2	15	7	7	5	3		3		2	2					
活動指標③																			
成果指標①	事業費ベースの進捗率	%	90.0	85.5	101.0	88.7	69.0	92.7	72.7		77.7		80.8	82.9			72.7	83	
成果指標②	仮換地指定率	%	80.4	85.8	81.0	86.5	88.6	87.0	87.5		88.0		88.5	89.0			87.5	89	
成果指標③	道路整備延長（累計）	m	8,102.6	8,247	8,120.6	8,588	8,230.6	8,800	8,585.6		9,305.6		10,225.6	10,526			8,585.6	10,526	
単位コスト（総コストから算出）	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		137,307		156,207		131,092	377,090		203,229		201,170	215,897					
単位コスト（所要一般財源から算出）	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		108,929		121,519		117,788	9,355		6,922		11,165	16,483					
事業費		千円		681,626		465,247		493,747	1,360,620		981,533		620,985	418,769					
人件費		千円		32,370		34,614		30,622	34,614		34,614		34,614	34,614					
歳出計（総事業費）		千円		713,996		499,861		524,369	1,395,234		1,016,147		655,599	453,383					
国・県支出金		千円		121,500		0		7,500	470,000		0		0	0					
市債		千円							0		0		0	0					
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		20,000		20,000		35,707	0		0		0	0					
その他		千円		6,064		90,999		10,012	890,620		927,770		620,985	418,769					
一般財源等		千円		566,432		388,862		471,150	34,614		88,377		34,614	34,614					
歳入計		千円		713,996		499,861		524,369	1,395,234		1,016,147		655,599	453,383					
		実計区分		評価結果	継続	継続	継続	継続	継続	継続									

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
当地区では、都市計画道路東部幹線整備を優先的に進めているところであり、令和3年度においては東部幹線の橋梁上部工の整備を実施したところである。 地区の南側に隣接する一級河川逢瀬川の河川改修に併せて、区画道路の整備や建物移転等の補償を行った。	道路整備や建物移転補償等の実施により、事業費ベースで進捗率が4ポイント増加した。	【事業費】 道路整備延長や建物移転戸数は減少したが、東部幹線橋梁整備を実施したことが事業費の増加となった。 【人件費】 人件費については、建物移転戸数や道路整備が減ったことから、事務量が減少し人件費が前年度より減額となった。

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4

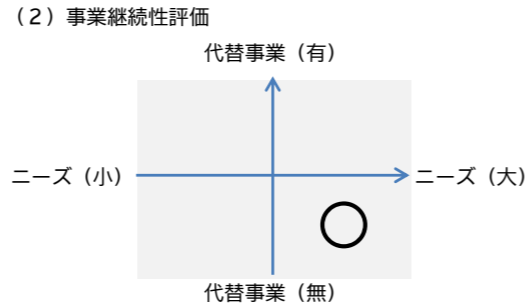


継続	一次評価コメント
継続	当地区では、地区内に位置する都市計画道路東部幹線の環状道路としての整備が急がれていることから、橋梁区間の上部工を継続費を設定して整備を進めているところである。 また、一級河川逢瀬川の河川改修工事が進み、住宅地の地盤も堤防に併せて上げることから、区画道路や建物移転補償等を継続して実施し、安全安心な市街地の形成のため事業の進捗を図る。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、郡山インター線及び東部幹線を中心に面的な整備を行い、中心市街地と周辺部を結ぶ交通体系の確立と計画的な市街地整備を行うものである。 令和3年度は東部幹線の橋梁上部工の整備を行うとともに、逢瀬川河川改修事業に併せて河川用地に位置する建物移転補償を行ったところである。 建物移転戸数は計画値を下回ったものの、道路整備の実施も含めると事業費ベースで進捗率が4ポイント増加し、前年度を上回る進捗が図られた。 地区内の権利者から換地先の土地利用などの事業の進捗が望まれており、都市基盤の整備を推進するためにも、今後も継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図(目的)
大綱(取組)	V「暮らしやすいまちの未来」	11.3 11.b	-	お知らせ(まちづくり通信)を発行し事業状況を周知する。土地区画整理事業施行地区内の道路等の公共施設整備、建物移転、宅地整地及び保留地売却を行う。	中心市街地及び、国道49号へのアクセスと公共施設の整備改善を図り、無秩序に市街化が進む地区内を健全な都市基盤に整備する
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち				

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
当地区は、道路の道幅が狭いことから緊急車両が通行できない。大雨の際には内水被害を受け、さらには開発等により宅地のスプロール化が進んでいる。	土地区画整理事業が進み、道路整備が図られ徐々に市街地形成が進んでいる。施工範囲の一部が地区内に含まれる国事業の阿武隈川河川改修事業が行われた。	土地区画整理事業の進捗により、笹川大善寺線が暫定供用されたが、今後は安積永盛駅前線や区画道路の整備により、更に安全、安心で快適な生活基盤が形成される。	多くの住民は協力的であり、幹線道路整備についても理解が得られている。一部の権利者とは事業の進め方、換地についての意見の調整を必要とするが、地区全体としては、早期の宅地整地、公共施設整備が望まれている。

2 事業進捗等(指標等推移)

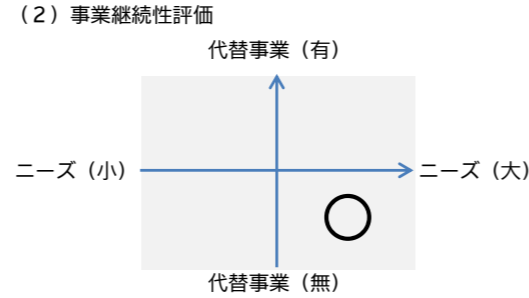
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		七次実施計画		八次実施計画		まちづくり基本指針		
			2019年度(令和元年度)		2020年度(令和2年度)		2021年度(令和3年度)		2022年度(令和4年度)		2023年度(令和5年度)		2024年度		2025年度		中間指標	最終指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	2022年度	2025年度	
対象指標	土地の権利者数	人		439		439		439											
活動指標①	道路整備延長(単年度)	m	180.0	47	310.0	750	575.0	230	920.0		560.0		770.0	825.0					
活動指標②	建物移転戸数(単年度)	戸	0	4	0	4	0	8	5		5		5	5					
活動指標③																			
成果指標①	事業費ベースの進捗率	%	46.8	47.9	58.5	53.3	57.3	61.8	65.0		71.5		77.6	91.2			65.0	91	
成果指標②	仮換地指定率	%	52.9	55.3	55.5	56.6	66.4	57.8	58.6		59.6		60.6	61.6			58.6	62	
成果指標③	道路整備延長(累計)	m	5,576.8	5,652	5,756.8	6,402	6,331.8	6,632	7,897.0		8,457.0		9,227.0	10,052.0			7,897.0	10,052	
単位コスト(総コストから算出)	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		142,533		164,741		86,008	353,137		185,602		187,863	182,509					
単位コスト(所要一般財源から算出)	事業費ベースの進捗率1%あたりのコスト	千円		113,087		81,873		50,068	4,698		5,565		11,670	2,660					
事業費		千円		352,858		853,426		693,042	2,682,979		1,170,237		1,109,792	2,445,945					
人件費		千円		31,983		36,177		38,030	36,177		36,177		36,177	36,177					
歳出計(総事業費)		千円		384,841		889,603		731,072	2,719,156		1,206,414		1,145,969	2,482,122					
国・県支出金		千円		24,000		447,489		215,490	499,500		0		0	0					
市債		千円		0		0		0	0		0		0	0					
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円		55,506		0		90,000	0		0		0	0					
その他		千円		0		0		0	2,183,479		1,170,237		1,109,792	2,445,945					
一般財源等		千円		305,335		442,114		425,582	36,177		36,177		36,177	36,177					
歳入計		千円		384,841		889,603		731,072	2,719,156		1,206,414		1,145,969	2,482,122					
	実計区分	評価結果		継続		継続		継続	継続		継続		継続	継続					

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費(事業費・人件費)分析結果
暫定供用している都市計画道路笹川大善寺線と都市計画道路徳定行合橋線(日大通り)を繋ぐ都市計画道路安積永盛駅前線の整備を優先的に進めており、令和3年度は橋梁部の上部工が完成した。	道路整備や建物移転補償を進めたことにより、事業費ベースの進捗率が8.5ポイント上昇した。	【事業費】 事業費については、令和3年度に要望していた交付金が令和2年度補正として前倒しで交付されたことから、前年度より事業費が減少した。 【人件費】 建物移転交渉において、前年度より多くの権利者と交渉を行ったことから、交渉による事務量の増加により人件費が増加した。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標(活動達成度)	4
5 成果指標(目的達成度)	4

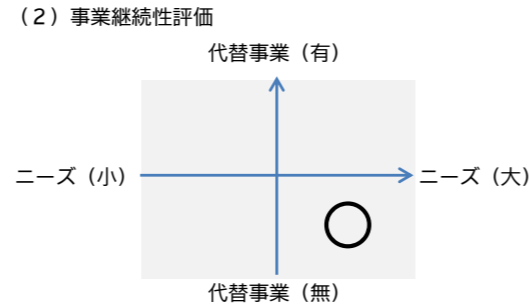


継続	一次評価コメント
継続	徳定地区と周辺地区とのアクセスを円滑にするため、幹線道路である笹川大善寺線と徳定行合橋線を繋ぐ安積永盛駅前線の早期完了を目指すため、優先的に整備を進めていく。 また、区画道路の整備や建物移転補償等を継続して実施し、健全な市街地の形成を図る。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標(活動達成度)	3
5 成果指標(目的達成度)	4



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、道路幅が狭い地区について、住宅環境を整備し、道路や河川を含む面的整備を進めるものである。 令和3年度は、道路整備延長(単年度)が計画値を下回ったものの、安積永盛駅前線の整備を優先的に進め橋梁部の上部工が完成した。また、建物移転補償も進めたことにより、事業費ベースの進捗率が8.5ポイント増加した。事業量の増加に伴い人件費も増加しているが、単位コストは抑えられており、効率的な事業運営となっている。 今後についても、幹線道路の笹川大善寺線と徳定行合橋線を繋ぐ安積永盛駅前線の整備を優先的に進め、継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図(目的)
大綱(取組)	V「暮らしやすいまちの未来」	6.2 11.7	-	公共施設総合管理計画個別計画に基づき、多目的トイレを備えた改築を進める。	トイレのユニバーサルデザイン化を進め、施設利用者の利便性の向上を図る。
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち				

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
公園築造当時の老朽化している和式トイレが多く、ユニバーサルデザインを進める必要があり、また、住民から改築を求める要望もあったことから、公園利用者の利便性・快適性の向上を図るために整備が開始された。	公園トイレについては、利用者からのトイレ洋式化に対する要望に加え、感染症対策や災害時における指定緊急避難所としての観点から、公衆衛生の向上を図る必要性が増している。	障がいのある人や育児世帯、さらには新型コロナウイルス感染症対策等に対する意識の高まりから、今後も、誰もがより一層安全・安心に利用できる整備が求められると予想される。	これまでの整備により快適性や衛生面が向上したため、利用者からは好評を得ており、未整備箇所についても計画的な整備を求めている。

2 事業進捗等(指標等推移)

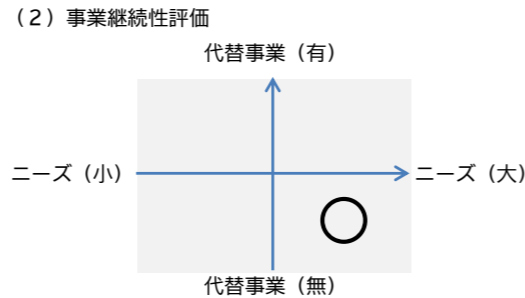
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		七次実施計画	八次実施計画	まちづくり基本指針		
			2019年度(令和元年度)	2020年度(令和2年度)	2021年度(令和3年度)	2022年度(令和4年度)	2023年度(令和5年度)	2024年度	2025年度	計画	実績	計画	実績	計画	実績	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	公園トイレ数	箇所		157		157		157		157		157		157			
活動指標①	公園トイレのUD改築件数(単年度)	件	4	4	4	4	6	5	11		9		9				
活動指標②	公園トイレの新築件数(単年度)	件		0													
活動指標③																	
成果指標①	公園トイレのUD対応率	%	76	75.8	78	78.3	82.2	81.5	88.5		94		100		82	100	
成果指標②	UDに対応した公園トイレの数	箇所	119	119	123	123	129	128	139		148		157		129	157	
成果指標③																	
単位コスト(総コストから算出)	公園トイレ改築1件あたりのコスト	千円		6,699		7,713		8,259	7,718		7,722		7,722				
単位コスト(所要一般財源から算出)	公園トイレ改築1件あたりのコスト	千円		3,424		3,788		3,619	2,155		2,156		2,156				
事業費		千円		20,992		24,723		35,254	68,000		55,700		55,700				
人件費		千円		5,802		6,127		6,040	16,900		13,800		13,800				
歳出計(総事業費)		千円		26,794		30,850		41,294	84,900		69,500		69,500	0			
国・県支出金		千円		0		0		0	0		0		0				
市債		千円		13,100		15,700		23,200	61,200		50,100		50,100				
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円		0		0		0	0		0		0				
その他		千円		0		0		0	0		0		0				
一般財源等		千円		13,694		15,150		18,094	23,700		19,400		19,400	0			
歳入計		千円		26,794		30,850		41,294	84,900		69,500		69,500	0			
		実計区分		評価結果		継続		継続		継続		継続		継続			

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費(事業費・人件費)分析結果
6か所の計画に対し、5か所の改築を実施した。	計画的にトイレの改築を実施したことから、公園トイレのUD対応率が増加し、利便性や快適性の向上が図られた。	【事業費】 改修したトイレの個所数が1か所増えたこと、また、原材料費等の上昇により1件あたりコストも上がり、総事業費が増額したが、起債の活用により、一般財源からの1件あたりコストは減少した。 【人件費】 改修したトイレの個所数は1か所増えたが、起債事務の効率化等により、人件費は減額した。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	3
3 効率性	3
4 活動指標(活動達成度)	4
5 成果指標(目的達成度)	4

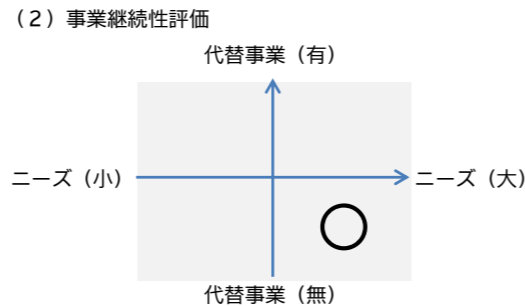


継続	一次評価コメント
	公園トイレは、公園利用者に加え公衆用としての役割も有していることから、幼児や高齢者、障がいのある方等、誰もが安全・安心に利用できる施設の整備が求められている。 また、公園は災害時の避難場所としての重要な役割も兼ねていることから、今後も計画的に事業を実施する。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	3
3 効率性	3
4 活動指標(活動達成度)	4
5 成果指標(目的達成度)	4



継続	二次評価コメント
	当該事業は、施設利用者の利便性の向上を図るため、利用頻度等を踏まえ、トイレのユニバーサルデザイン化を進める事業である。 令和3年度は、ユニバーサルデザイン化改修に充てられる公園整備事業債の活用により、酒蓋、館前、阿良池、前林、宮脇公園の5公園について整備を行い、ユニバーサルデザイン化が完了したトイレは128箇所となり、対応率も81.5%と着実な事業進捗が図られている。 公園トイレという不特定多数の方が利用する空間の整備は、他の公共施設同様、新型コロナウイルス等の感染症対策に寄与する。また、公園は、災害時における指定緊急避難場所としての役割を有していることから、今後においても、計画的に未整備箇所公衆衛生の向上を図るため、引き続き、財源の確保に努めつつ関係部局と調整を図りながら継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図(目的)
大綱(取組)	V「暮らしやすいまちの未来」	11.7 12.8	-	①屋外広告物の許可(新規、変更、更新等) ②違反広告物への対応(調査、指導、簡易除却等) ③屋外広告業者の指導(登録、講習会の開催等)	屋外広告物及び屋外広告業について必要な規制を行うことにより、良好な景観の形成と風致を維持し、また事故等による市民への危害を防止することを目的とする。
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち				

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
平成9年の中核市移行に伴い、屋外広告物に関する事務が県から委譲された。	条例に基づく申請時の審査・指導により適切な規制、誘導を図るとともに、違反広告物については、パトロール等を実施し、良好な景観形成の推進を図っている。	設置者の安全管理や違反に対する意識が希薄であり、制度の理解不足や制度を理解していても違反する場合がある。今後は、屋外広告物条例の許可基準について市民や企業等に周知を図っていく必要がある。	違反簡易広告物等に対する通報等が、市民から寄せられており、減少傾向にあるものの未だに貼られている状況にある。また、屋外広告物の安全確保が求められているため、パトロール等を通じて適正な規制、誘導及び撤去が必要となる。

2 事業進捗等(指標等推移)

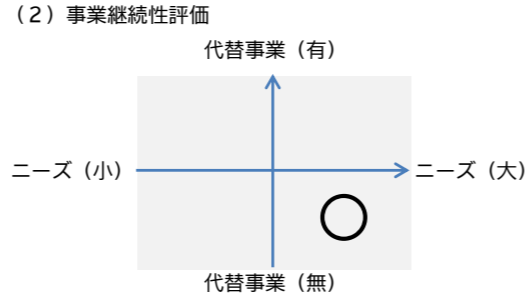
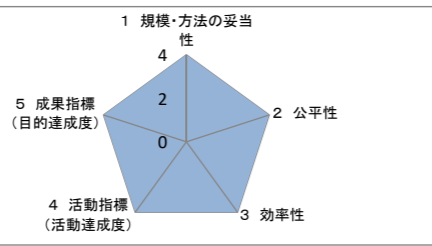
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		七次実施計画		八次実施計画		まちづくり基本指針		
			2019年度(令和元年度)		2020年度(令和2年度)		2021年度(令和3年度)		2022年度(令和4年度)		2023年度(令和5年度)		2024年度		2025年度		中間指標	最終指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	2021年度	2025年度	
対象指標	屋外広告業者登録数	社		345		365		329											
活動指標①	屋外広告物許可申請件数	件		969		900		1,006		900		900		900		900			
活動指標②	パトロール日数	日		60		65		36		65		65		65		65			
活動指標③																			
成果指標①	許可申請に係る手数料収入	千円	15,000	18,365	15,000	18,191	15,000	17,699	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
成果指標②	違反広告物簡易除却件数	件		2,183		2,650		27		2,650		83		500		500		500	500
成果指標③	屋外広告物事故件数	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
単位コスト(総コストから算出)	手数料収入1円あたりのコスト	円		0.7		0.7		0.8		0.7		0.7		0.7		0.7		0.7	0.7
単位コスト(所要一般財源から算出)	手数料収入1円あたりのコスト	円		0		0		0		0		0		0		0		0	0
事業費		千円		241		200		362		478		478		478		478		478	478
人件費		千円		14,028		14,489		14,159											
歳出計(総事業費)		千円		14,269		14,689		14,521		478		478		478		478		478	478
国・県支出金		千円																	
市債		千円																	
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円																	
その他		千円		18,365		18,191		17,699		478		478		478		478		478	478
一般財源等		千円		-4,096		-3,502		-3,178		0		0		0		0		0	0
歳入計		千円		14,269		14,689		14,521		478		478		478		478		478	478
	実計区分	評価結果		継続		継続		継続		継続		継続		継続		継続		継続	継続

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費(事業費・人件費)分析結果
2年毎の屋外広告物更新申請と新規申請を通じて、適正な広告物の掲出を指導するとともに、違反広告物に対する市内のパトロール及び簡易除却を実施した。	違反簡易広告物が市内全域におよぶため、全てを把握するのは難しい状況にあるが、市民や関係機関の協力(通報)により違反広告物を除却したため、件数はやや増加傾向となった。今後も継続してパトロールを行うとともに、市民や関係機関と協力しながら、屋外広告物の規制及び指導を行う。	【事業費】 条例改正に伴い、チラシを作成し設置者や広告業者に周知したため、増額となった。総事業費については、新規許可申請や更新許可申請、未更新催告指導により、前年度と同等額と安定した手数料収入を確保している。 【人件費】 人件費については、屋外広告物に対して適正な規制・誘導を図るため、電話や郵便等による催告指導や未許可の屋外広告物調査に要した経費である。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 活動指標(活動達成度)	4
5 成果指標(目的達成度)	4

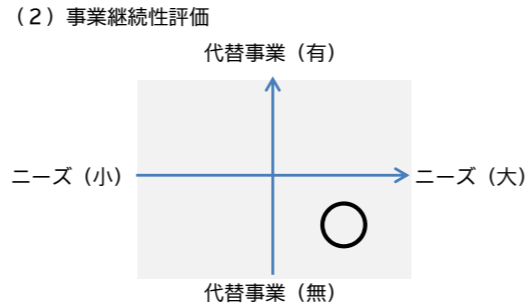
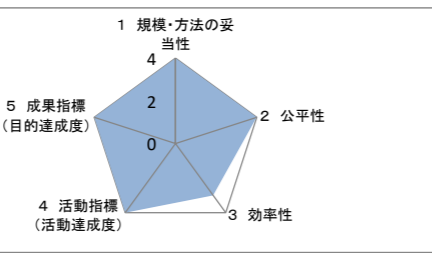


継続	一次評価コメント
継続	屋外広告物は、常時又は一定期間継続して屋外で公衆に表示されるものであって、看板、立看板、はり紙及びはり札並びに広告塔、広告板、建物その他工作物等に掲出され、表示されるものになる。これら屋外広告物に対する規制や指導、違反広告物への対応を継続的に実施したことにより、良好な景観形成や安全確保が図られているため、今後も継続して事業を実施する。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 活動指標(活動達成度)	4
5 成果指標(目的達成度)	4



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、屋外広告物の許可や指導等を行い、違反広告物を除却することにより、良好な景観形成や風致維持、屋外広告物による事故を防止する等、市民の安心安全の確保に寄与している事業である。 令和3年度は、市民や関係機関の協力により、違反広告物の除却件数が増加するとともに、違反広告物への対応を継続的に実施したことにより、良好な景観形成や安全確保が図られた。また、事業費の増については、屋外広告物の安全性の向上を図るため、安全点検報告書提出の義務化等の条例改正(令和3年7月1日施行)を行い、チラシの作成及び関係者へ周知を行ったことによるものである。 今後においても、良好な景観の形成及び屋外広告物による事故防止のため、関係機関と連携を図りながら、継続して事業を実施する。